

平成 29 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	特定非営利活動法人インターナショナル
活動テーマ	駅を拠点にした災害時被災者支援ツールの制作実装と協力関係づくり



大規模災害発生時、外国人や障害者など個別の事情を抱えた被災者は避難行動や避難生活に難しさを感じています。熊本地震発生時、被災した訪日外国人の 44%は避難せず、避難誘導を理解できたのは 32%に止まりました。また東日本大震災発生時、被災した外国人は平均 3 日で避難所を離れ、独自のコミュニティや危険な自宅に避難した結果、公的な支援の枠組みから外れ孤立を深める傾向が見られました。

2020 年の訪日外客 4,000 万人を見据え、被災者の多様な違いをバリアとせず情報提供とニーズ把握を円滑にして事故やトラブルを防ぎ、お互いに支え合えるように。本事業では多くの人が集まる京阪神の主要駅とその周辺をモデル地域に設定し、駅を拠点に地域住民や関係者との協働から災害発生時に利用できる避難者支援ツールを制作実装すること、また制作プロセスを通して地域ごとに顔が見える防災コミュニティを形成することを目的として開催しました。

具体的には京阪神の主要ターミナル駅である大阪駅・京都駅・三ノ宮駅を拠点に、地域ごとに外国人や障害者を含む多様な参加者の参画のもと避難マップづくりワークショップを開催しました。また大学コンソーシアムひょうご神戸の協力のもと、14 カ国 48 名の外国人を含む参加者 80 名とともに避難所生活に求められる会話検証ワークショップを開催し、当事者参加型のデザインから被災者支援ツールを作成しました。また各プロセスを通してお互いに顔が見える関係を築き、災害発生時には相互に支え合える協力関係づくりに取り組みました。